

安里交差点周辺(那覇市)

元々は県道29号那覇北中城線と国道330号のひめゆり通りが交差する三叉路でしたが、1970年に古島インターチェンジまで国道330号(バイパス)が開通したことで現在の交差点になりました。その後、モノレール計画に合わせ、2002年には安里高架橋が架け替えられ、交通混雑の緩和が図られています。

復帰の頃



現在



古島インターチェンジ周辺(那覇市)

国道330号(バイパス)と県道82号那覇糸満線(環状2号)が交差するインターチェンジです。復帰の頃に見られた米軍住宅地(右奥)は返還により姿を消し、「おもろまち」として生まれ変わりました。現在は商業施設や大型マンションが街並みを形成しています。インターチェンジ近くにあるゆいレール古島駅は、那覇新都心の北側の駅として機能しています。

復帰の頃



現在



内間から小那覇方面を望む(西原町)

西原町内間から小那覇方面を望む国道329号のまち並みです。復帰当時の写真に見える2本の煙突は旧中部製糖工場のもので、現在は大型商業施設に様変わりしています。右上には、西原町と与那原町の境にある運玉森(ウンタマムイ、標高158メートル)を望みます。

復帰の頃



現在



真栄原交差点(宜野湾市)

真栄原交差点は、米軍普天間飛行場に近く、復帰以前から車の往来の多い交差点でした。当時は信号も整備されていない状態でしたが、現在は浦添西原方面から嘉数中学校に向けて県道が拡幅されるなど、地域の幹線道路として利用されています。

復帰の頃



現在



### ライカム交差点(北中城村)

北中城村と沖縄市の境目付近にある交差点で、復帰前の写真で左に見えるのは米軍「泡瀬ゴルフ場」です。返還後は周辺の道路も整備され、大型ショッピングモールや総合病院、高層住宅など一帯の跡地利用が進んでいます。再開発に伴い、それまで通称だった「ライカム」は2019年に「字ライカム」と行政上の地名になりました。

復帰の頃



現在



### 胡屋十字路周辺(沖縄市)

米軍嘉手納基地第2ゲートから伸びる「ゲート通り」と国道330号が交わる胡屋十字路周辺は、復帰前から国際色豊かなコザ市(現沖縄市)の中心地として発展してきました。2007年には交差点がスクランブル化され、音楽ホールを併設した複合施設コザ・ミュージックタウンがオープンするなど、地域のにぎわいを創出しています。

復帰の頃



現在

